

# 『未来の大人の防災まちづくり会議 in 東京』

## 開催報告

2013年8月3日(土)、東京大学生産技術研究所において『未来の大人の防災まちづくり会議 in 東京』を開催しました。全国各地から小・中学生、高校生が集まり、地域で行っている活動の経験を共有し、地域の未来への思いを語りました。ここでは、参加した小・中学生、高校生の発表や意見交換の様子についてご報告します。参加団体、主催・共催・協力・後援団体は下記の通りです。

### 参加団体：

- ◆ 徳島県美波町立由岐中学校伊座利分校・伊座利小学校
- ◆ 宮城県南三陸町有志中学生・高校生
- ◆ 東京都葛飾区立上平井中学校 理科部
- ◆ 神奈川県茅ヶ崎市立第一中学校 生徒会

**主催：**未来の大人防災まちづくり会議 in 東京 実行委員会、

**共催：**東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター

東京大学生産技術研究所 次世代育成オフィス ONG

**協力：**NPO ア！安全・快適街づくり、M3R-abc、葛飾区、NPO コレクティブハウジング社

**後援：**美波町（徳島県）、茅ヶ崎市



## 1. 本会議のプログラム

### ①会議の目的の説明と参加地区の紹介

最初に東京大学生産技術研究所 加藤孝明准教授から会議の目的と参加地区の紹介がありました。

### ②各地区の発表

各地区がそれぞれの地域での取り組みについて発表しました。参加者には、各地区の取り組みについて質問と感想を「ふせん紙」に書いてもらいました。

### ③意見交換

参加者からの質問と感想を参考にしながら意見交換を行いました。



全国から集まった小中学生のみなさん



発表の様子



質問・感想を書く参加者



各地区への質問・感想



参加者どうしの意見交換



質問に答える参加者

## 2. 各地区の発表&意見交換の様子の報告

各地区での取り組みの発表&意見交換の様子を、各地区参加者のお世話を担当したスタッフが自分の感想とともにまとめました。

### ◆南三陸町歌津地区「災害に強いまちづくりを目指そう」

#### 〃 志津川地区「自分の体験とそこから繋がる防災 私たちが震災から学んだこと」

志津川地区の皆さんは、東日本大震災時の地元の避難所の課題や改善策などを分析し、発表してくれました。実際に自分たちの足で現場を確かめ、客観的に評価することができていました。歌津地区の皆さんは、震災後に自分たちで行った避難所設営訓練の模様を発表してくれました。訓練の中で自発的に工夫を凝らす様子が、発表からよく伝わってきました。いずれの地区の発表からも震災の経験を大切に活かそうとする姿が見られました。また、意見交換のための付箋には、積極的に意見や質問を書き添えて、他の地域の経験からもしっかりと学んでいました。他方で、他の地域の皆さんも震災を実際に経験した彼らの話を聞くことで、災害への意識が深められたようでした。(東京大学大学院生 色田彩恵)

### ◆美波町立由岐中学校伊座利分校・伊座利小学校「秘密のソンミンショー ～伊座利カミングアウト～」

伊座利では、毎年、小・中学校の生徒が地域の文化や歴史などを調べ住民の前で発表する「磯学習」が行わ

れていて、未来の大人の防災まちづくり会議ではこの「磯学習」について発表しました。地域の「あったか〜い」つながりをテーマに、地域の高齢者との交流を深めるため、地域の高齢者の方々に直接アンケートをとり、伊座利ならではの「ばらずし」などの料理を生徒らがつくり振る舞うなどの活動を発表し、他地区の方からは「地域のあったかいつながりは防災の底力になりそうですね」などのコメントがありました。また伊座利地区の発表はテレビ番組のパロディ劇のような形でエンターテインメント性があり、「おもしろい」「おもわずくぎづけになりました」と注目を集めていました。

地域のつながりを深める磯学習は他地域にとっても見習うことの多い発表であり、本会議を通して他地域でも高齢者との交流を深める活動などが広がっていくと良いと思います。(東京大学大学院生 吉岡祐)

#### ◆茅ヶ崎市立第一中学校「防災活動報告」

茅ヶ崎第一中学校生徒会の皆さんは、「小さな意識は大きな力に」をスローガンとして取り組んだ活動について発表してくれました。東日本大震災の被災地へ赴き、現地の中学生と交流して現地の状況を学び、自分の住む地域の安全性についても一度考えるきっかけとなりました。また、中学校での防災訓練に際し、防災意識に関する詳細なアンケートを実施することで、中学生の防災意識の変化も調査し、今後の防災活動における指針としています。被災地ボランティア活動、地域での防災活動の実践内容には、未来の大人会議の参加者の質問も多く、参加者にとっても実り多い発表となっていました。

茅ヶ崎市立第一中学校生徒会の皆さんは、地域での防災まちづくりにも率先して参加してくれています。地域の大人たちに混じって議論をするのは難しいかもしれませんが、未来を担う若い力としての自分たちの役割を意識しながら、地域の将来につながる取り組みを続けていただければと思います。(東京大学大学院生 工藤祥子)

#### ◆葛飾区立上平井中学校「水害についての研究発表」

葛飾区新小岩地区からは、葛飾区上平井中学校の理科部から6名が発表に参加しました。発表タイトルは、「水害についての研究発表」です。新小岩地区が海拔ゼロメートル地帯であること、そのために考えられる災害や被災状況について学習した内容を発表しました。また、学習にあたっては新小岩地区で自治会やNPO活動をする人々からの支援を受けたことも併せて報告しました。意見交換の時間には、他の地区の“未来の大人”から、「今持っている危機感をもち続けてほしい」という感想が寄せられ、「防災につながる地域での活動はどんなものがあるか」という質問もありました。質問に対して、「地域の防災訓練や清掃ボランティアに参加し、つながりを深めている」と回答がありました。(葛飾区防災課 鈴木庸介)

#### ◆意見交換で共有されたこと

南三陸町の中高生たちの被災経験に基づく取り組みの発表からは、「被災する」ということのリアリティが伝わってきました。他の地区の小中学生にとっても貴重な経験の共有となったと思います。茅ヶ崎市、葛飾区の中学生たちは、自分たちの街の災害リスクの特徴を非常に良く調査しており、「これからいかに災害に備えていくべきか」という問題意識を感じました。伊座利の小中学生たちの発表からは、伊座利での暮らしを支えている自然、地域の人々の営みと絆が生き生きと伝わってきました。意見交換での参加者からのコメントには、「地域のつながり」、「絆」という言葉が多く聞かれました。災害時は日頃からの人と人とのつながりが大切だということが改めて共有できたのではないのでしょうか。この会議への参加をきっかけに、『未来』の大人も『今』の大人も、それぞれの世代の視点で、「日常の地域のつながり」から「災害への備え」を考えていくことにつながればと思います。(東京大学大学院生 塩崎由人)

### 3. 全体をふりかえって

最後に、今回の会議全体をふりかえって、海外から日本に留学している二人の大学院生から、会議に参加した「未来の大人」のみなさんに向けてメッセージです。

#### ◆ヤスミン・バタチャリヤ（東京大学大学院生，ニュージーランド）（今回の会議では「意見交換」担当）

未来の大人の防災まちづくり会議に参加していた小中学生，高校生たちは，自分の身の回りだけでなく，もっと大きいスケールで見る「地域」，その環境やリスク，また，そこに住む住民が必要とするもの，を本当によく理解しているという印象を受けました。地域の問題と向き合う姿勢はすばらしく，発表からはその熱心な取り組みが伝わってきました。特に，南三陸から来てくれた中高生たちは，被災した経験もあって，将来的に本当に実用できるような訓練（生徒だけでマネージする避難所生活など）を行っていることが印象的でした。防災を専門する者としては，一生懸命防災を心がける日本の未来の大人たちの姿がとても心強く希望が持てました。自分の国でも，このような取り組みを教育システムの中に取り入れねばと思います。

#### ◆徐笑歌（東京大学大学院生，中国・四川省）（今回の会議では「総合司会」担当）

小・中学生，高校生たちは大人と比べると柔軟な心を持ち，偏見なしに新しい考えを受け入れることができます。また，大人の視点では気づきにくい，大人にとっては危険ではないけれど，生徒たちにとっては危険な環境や注意点を指摘し，改善を求めることで，地域全体の安全向上に貢献することができます。

今回の「未来の大人の防災まちづくり会議」を通して，五組の生徒たちが各地区の減災活動を紹介しました。発表時間が制限されたので，とても緊張していたようですが，パワーポイント，ビデオ，演劇などで自分たちの考えをしっかりと伝えました。茅ヶ崎市の生徒たちは，被災地に行ったり，アンケートを行ったり，色々な防災活動も展開していて，学んだことや吸収したことをきちんと自分たちのこととして捉え，発信できていることが素晴らしいと思います。

このほかに，皆さんが工夫した様々な発表形式のおかげで，「防災」という固いイメージからも脱却し，自分たちの地域の魅力もしっかりとアピールできていました。「なにもないけど，なにかある」，伊座利の小学生たちの発表を聞くと，やっぱり一度「伊座利のアラメ汁」を飲みたくなりました。

私たち大人は，こんな生き活きと輝く「未来の大人」たちを見て嬉しく思うと同時に，頼もしく思えました。自分たちが伝えなかったことが発表を通して伝わっていると実感しました。今後も，「未来の大人」のみなさんが，今まで学んだことを家族やコミュニティに伝えることで，防災・減災のアイデアを広めることを期待しています。

編集：東京大学生産技術研究所 加藤孝明研究室

\*\*\* 本事業実施にあたっては、一般社団法人関東地域づくり協会公益事業助成を受けました。\*\*\*